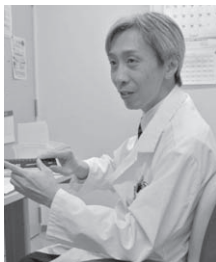


城山病院
特集⑧

難治性疼痛薬リリカについて

城山病院 麻酔科部長 大中仁彦医師

さまざまな痛みの治療にあたるペインクリニック。最近話題になってきている難治性疼痛(神経障害性疼痛)薬リリカ(プレガバリン)について大中医師に話を聞いた。



日本ペインクリニック学会 専門医 / 日本頭痛学会 専門医 / 日本東洋医学会 漢方専門医 / 日本麻酔科学会 専門医・指導医 / 日本医師会 認定産業医 / 大阪医科大学 臨床教育准教授 / 大阪医科大学 非常勤講師

神経障害性疼痛にしか効かない

リリカは最近発売されて、非常な勢いで普及していますが、「以前にリリカを処方されたが効かなかった」という患者さんがいらつしやいます。実は、この薬は非常によく効くのですが、使い方と効き方が難しいのです。その理由の一つが神経障害性疼痛にしかきかないこと。この症状の話を始めると、難しくなりすぎるので、例え話をします。普通の痛み、例えば、打身や切傷のような痛みは、鉄道に例えると終着駅から乗客が乗り込んできて、電車に乗って運ばれる痛みと例えることができます。つまり、皮膚からの痛み信号が、神経を伝わって脳に運ばれて痛い、皆さんは感じます。このような痛みは、乗客がいなくなると、つまり痛み刺激がなくなると、運ぶものがなくなると、痛みを感じなくなります。痛みを取るためには、乗客が乗らないよう、例えば口キソニンやボルトレンを使います。これに対し、神経障害性疼痛とは鉄道に例えると同様に、乗客が暴れます。つまり、神経障害性疼痛とは、痛み刺激を受けた痛みです。障害箇所では神経がいつも

暴れて火花を散らし、脳はピリピリと焼けつくような痛みを感じてしまっています。この痛みが神経障害性疼痛といわれるもので、代表的なのが帯状疱疹のあとに残る帯状疱疹後神経痛、幻肢痛などです。痛みを発する各種の興奮性神経伝達物質の放出を抑制することで、これらの痛みに効くのがリリカなのです。

効き始めるまでに2週間ほどかかる

このような神経障害性疼痛は、線路を直すのに時間がかかるように、簡単には治りません。薬を飲み始めて少し効いたかなと感じるまで1週間、効いたと実感できるまで2週間ばかりです。また、このような複雑な痛みを全く無くすることはできません。報告では、治療前の痛みを10点満点の6点とすると、治療をして4点に下がる程度です。神経障害性疼痛で24時間、365日ひどい痛みで困っている患者様は、いままでもんな治療法でも直すことができなかったのですが、2点下がったという事で非常に喜ばれます。つまり、リリカとは、飲み始めて2週間たつて、2点下がるという非常によく効く薬です。

副作用がある

リリカには副作用が

ペインクリニック外来が予約制に

このように、リリカは効果が出てくるまで2週間ほどかかります。最初は副作用しか現れません。頑張つて飲み続けてください。もちろん、副作用が強いようでしたら用量調整もさせていただきます。また、「2週間飲んだけど、痛みが0にならない」ともいわれません。痛みは0にはなりません。2点減るだけです。期待しすぎないで下さい。

予約をされた患者様はできるだけ待つ時間が短くなるよう優先させていただきます。もちろん、痛みは予約できませんので、予約外で受診された方も診させていただきます。お待ちいただくこともありますのでご了承願います。

また、外来日が増えました。(月)(金)9時〜12時です。